

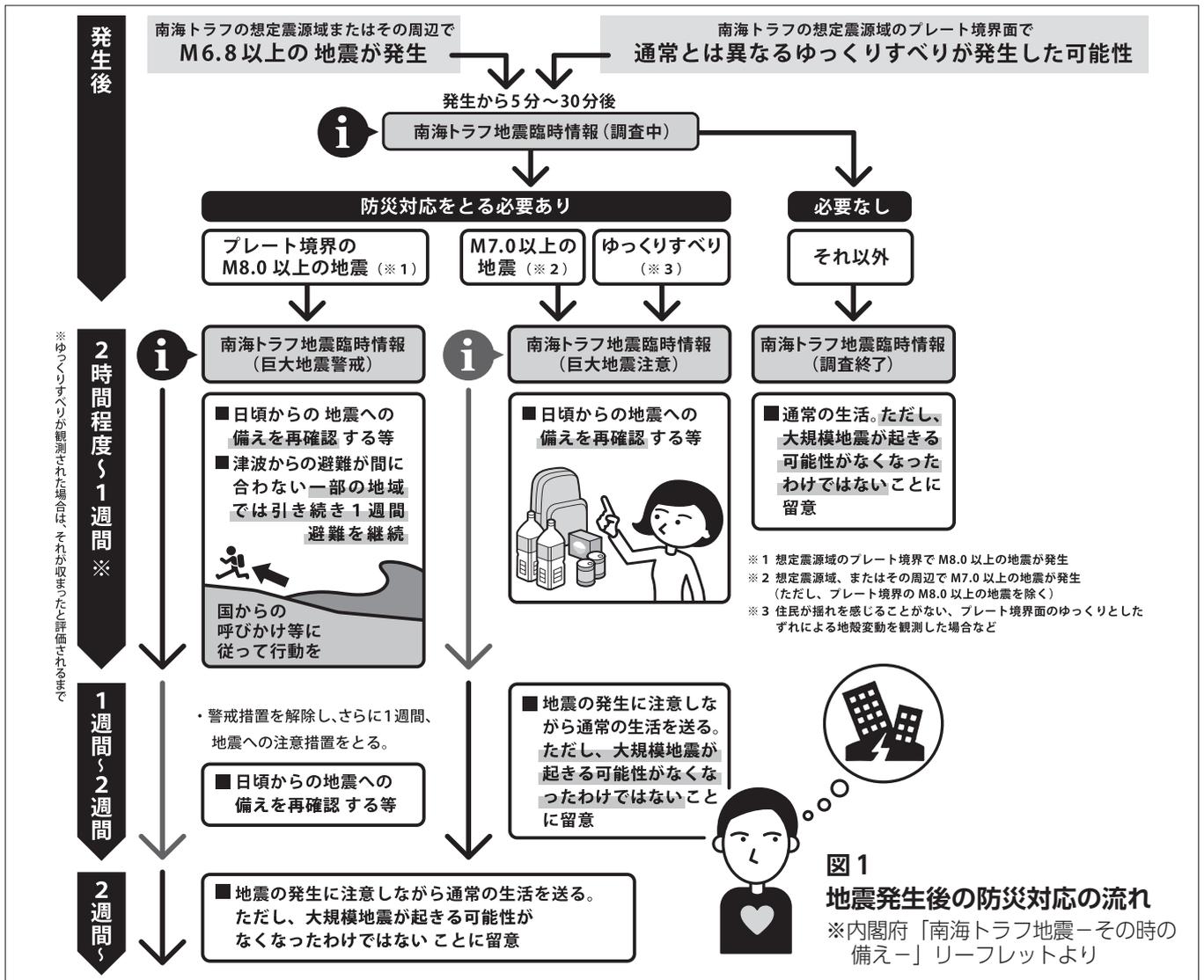
大鹿村中央構造線博物館たより 184号



2024年9月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

はじめての「南海トラフ地震臨時情報」



2024年8月8日、日向灘の深さ31kmを震源とするマグニチュード7.1の地震が起き、宮崎県日南市で最大震度6弱の揺れを観測しました。この地震を受けて、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。これは、2019年5月31日に南海トラフ地震に関する情報の運用が開始されて以来初めてのことで、南海トラフ地震の想定震源域で大規模地震が発生する可能性が、平常時と比べて相対的に高まっていることを知らせるものです。

南海トラフ地震臨時情報は、情報名の上にキーワードを付記して情報発表することになっています。図1にあるように、南海トラフ沿いで異常な現象を観測すると、5~30分後にまずは「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」が発表され、概ね2時間後くらいに、その後の調査結果を受けて、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」、「調査終了」の3つの中のいずれかのキーワードの付記された情報が発表されるそうです(図1)。

表1 南海トラフ地震臨時情報発表の経緯

2024年8月8日 16時43分	日向灘にてマグニチュード7.1の地震発生
2024年8月8日 17時00分	気象庁が「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」発表
2024年8月8日 19時15分	気象庁が「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」発表
2024年8月9日 15時30分	気象庁が「南海トラフ地震関連解説情報(第1号)」発表 その後、1日おきに第2号～第6号まで発表
2024年8月15日 17時02分	気象庁が「南海トラフ地震関連解説情報(第7号)」発表

今回は、表1のように、日向灘にてマグニチュード7.1の地震が発生したことをきっかけに、「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」が発表され、しばらくしてから「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。その後は、1日おきに「南海トラフ地震関連解説情報」が発表され、状況の推移についての解説が出されていました。そして、1週間後となる8月15日をもって「南海トラフ地震関連解説情報」の発表も終了となりました。ただし、この1週間というのは、図1にあるように、南海トラフ地震に関する情報を運用するうえで事前に決めていた期間であり、1週間たてば大規模地震が発生する可能性がなくなった訳ではないので、「日頃からの地震の備え」は引き続き必要とのことです。(宮崎)

大鹿村も「南海トラフ地震防災対策推進地域」

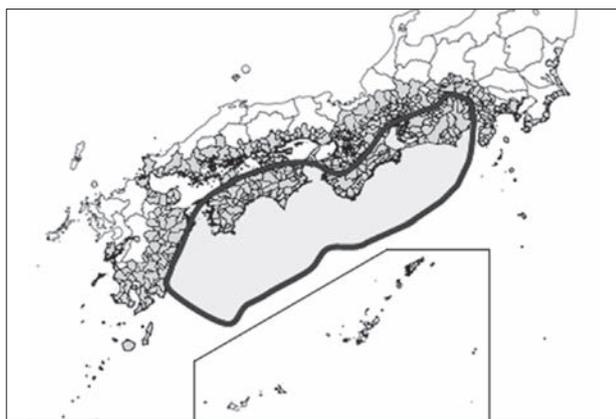


図2 南海トラフ巨大地震の想定震源域(太線で囲まれた領域)と南海トラフ地震防災対策推進地域(色付きの市町村)

※気象庁ホームページより

南海トラフ地震とは、駿河湾から日向灘にかけてのプレート境界を震源域として起こる大規模地震のことを指します。図2は、南海トラフ地震のうち、最大級の地震が起きる場合の想定震源域を太線で囲ったものです。また、南海トラフ地震が起きた場合に大きな被害が予想される市町村は「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されており、図2では、灰色で塗られています。大鹿村は、想定震源域内に位置しており、「南海トラフ地震防災対策推進地域」にも指定されています。

ただし、図2の想定震源域は、最大級のマグニチュード9級の地震が起きた場合を想定したものであり、過去に発生した南海トラフ地震では、この想定震源域全体が一度にずれ動いたことはないようです。図3を見ると、想定震源域から少しエリアを狭めた領域で地震が起きていることもあれば、紀伊半島あたりを境に東側と西側で、少し時間を空けて2回地震が発生していることもあります。(宮崎)

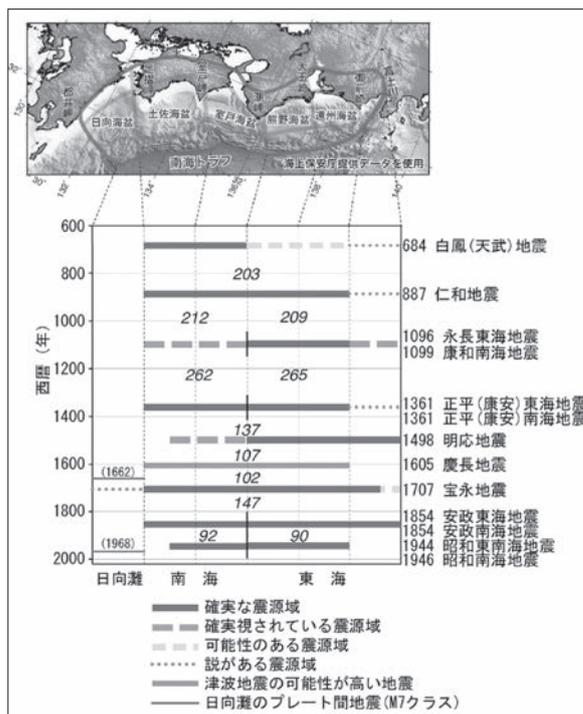


図3 過去に発生した南海トラフ地震の震源域の時空間分布

※「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部)より